

東京庄原格致会会報

第24号

2016年9月

発行人・積山弘佳
編集人・武広巖
印刷所・(株) クレスコア・エス
コミュニケーションズ

二十七度総会・懇親会の報告

同窓の絆を深めて

積山会長再任・二期目に！

秋晴れに恵まれた昨年十月十八日(日)、同窓の会員五十人が四谷駅前の主婦会館「プラザエフ」に集い懇親の集いを広げました。前年まで利用してきた「ホテルゆうぼうと」が閉館のために会場を変えての開催になりました。

来賓として庄原から母校同窓会会長の片山孝昭様、母校教頭の杉野誠先生をお迎えしたほか、庄原実業高校東京支部・本田洋治事務局次長、世羅高校東京校友会・国政和道副会長、広島県人会・小林正治会員拡大委員会幹事に参加していただき、会を盛り上げていただきました。

会場内には旅行同好会のメンバーを中心に、写真同好家の作品が展示されて盛り上げに一役かっています。

今年の参加者の最年長者は県立

格致中学二十年卒の八谷義登(雅号達憲)さん、最年少者は五十三年卒の坂口(旧姓・黒田)純代さん。また、四十八年卒の皆さんが声を掛け合って七人も出席していただきました。

《総会》

総会は十二時から寺川幹事長(三十七年卒)の開会挨拶で始まり、冒頭この一年間に事務局へ逝去の連絡をいただいた九名の方のご冥福を祈り、黙祷を捧げました。

次いで積山会長(三十五年卒)から会の運営について「会員の増加策について、学年幹事の充実を図ると共に女性会員の増加に努めたい。」「ゴルフ・囲碁・日帰り旅行の同好会に皆さん誘い合わせ、積極的に参加していただき懇親の輪を広げて欲しい。」等の話がありました。

来賓の方々の紹介がなされた後、片山会長から「この十一月十一日に旧庄原市と比婆六町の合併一〇周年記念行事が行われる。当初四万三千人余の人口であった

ものが、今は三万七千人余と毎年七百人の減少が続いている現状から、向こう一〇年間、三万五千人を死守するための長期総合計画が策定される。」「自分は会長五期を迎えるが、当初母校は定員割れの状況で統廃合の恐れもあったが、学校を始めとする関係者の努力でその懸念はなくなった。市の助成金も六十万円から百万円に増額されて支援体制も強化されている。」「母校は平成二十九年には百二十周年を迎える。二回目の還暦を迎えることになるので、同窓会として実行委員会を編成し、支部の協力も得てしっかりと頑張りたい。」とのお話がありました。

杉野教頭先生からは母校の現状について、「学校行事に地域住民の参加が増える傾向でうれしい。」「三次における生徒募集のPR、オープンスタールの開催、体育祭の実施などの行事の報告があり、学校のH・Pへの掲載を楽しみにして欲しい。」「九月からのマレーシアへの修学旅行は生徒にとっても感動的なものであった。刺激を受けた生徒たちは帰国後、熱心に英語をはじめとする授業に取り組んでいる。」などの紹介をいただきました。



出席された皆さん

議事に入り、まず、花田事務局長（四十年卒）から二十六年度の事業活動。会計について報告が行われた後、遠藤監事（三十七年卒）の監査報告を受けて満場一致で承認されました。

* ポイント 会費納入者が一四六人と少なく、寄付金も少ないため次期繰越金が六七千円余減少

次いで、二年の任期を迎えた役員の変更が議題になりました。立候補者がいない中、積山会長の再任が発議され全会一致で留任が決まり、他の役員は会長一任となりました。寺川幹事長は留任となりましたが、事務局長は本人の希望を受け入れて花田さんから武広 巖さん（四十八年卒）にバトンタッチされ、その他の役員は概ね現状維持の方向で進めたいと会長の意向で一任となりました。

《懇親会》

福場副会長（四十五年卒）の明るい司会で幕を切った懇親会は、出席者最年長の八谷義登さんの「勉強より学徒動員」という戦時体制下での学生時代を振り返りながらのスピーチをいただき乾杯し、歓談に移りました。喉をうる

おしお腹を満たし、久しぶりの会話が進む中、来賓の本田様、国政様、小林様からユーモアも織り込んだ祝辞をいただきました。

楽しい会話の輪が広がる中、昨年に引き続きビンゴ大会が沢山の郷里のお土産を賞品として賑やかに繰り広げられ嬉しい笑い声が響きました。

一段落したところで、恒例となった郷土民謡「敦盛さん」を庄原市無形文化財保存会の大岩（旧姓・花好）征子さん（三十七年卒）のリードで合唱し、続いて「校歌・応援歌」を皆で高らかに歌い上げました。

話が尽きないなか、終了予定時間の三時半を迎え中締めに移りました。発声は二六年卒の皆さんが壇上に揃うなか、同期で顧問の保田治義さんの一本締めで閉会になり、別れを惜しみながら来年の再会を誓って三々五々のフィナーレになりました。



ビンゴの賞品を受取る信清さん



総会風景の一コマ



受付の福場副会長と武広副事務局長



開会宣言をする寺川幹事長



懇親会の一コマ



懇親会の一コマ



挨拶をする積山会長



来賓の皆さん

出席者名簿

片山孝昭 片山孝昭 庄原格致高校同窓会会長
 杉野誠 杉野誠 庄原格致高校教頭
 本田洋治 本田洋治 庄原美業高校東京支部事務局次長
 國正和道 國正和道 世羅高校東京校友会副会長
 小林正治 小林正治 東京広島県人会会員拡大委員

- 八谷義登 昭和二〇年卒 (峰田)
- 金森裕雄 昭和二五年卒 (総領)
- 室伏孝一 昭和二六年卒 (山内西)
- 三浦重造 昭和二六年卒 (東城)
- 保田治義 昭和二八年卒 (比和)
- 兼利卓蔵 昭和二八年卒 (比和)
- 近藤正昭 昭和二九年卒 (比和)
- 信清治博 昭和三〇年卒 (比和)
- 渡利治博 昭和三〇年卒 (比和)
- 中田唯之 昭和三三年卒 (比和)
- 生田八洲紘 昭和三三年卒 (比和)
- 合田良三 昭和三四年卒 (比和)
- 森沢進 昭和三四年卒 (比和)
- 香川邦生 昭和三四年卒 (比和)
- 黒田正宏 昭和三五年卒 (比和)
- 泊田芳徳 昭和三五年卒 (比和)
- 田淵統洋 昭和三五年卒 (比和)
- 積山弘佳 昭和三七年卒 (比和)
- 堀越淳子 昭和三七年卒 (比和)
- 八谷英樹 昭和三七年卒 (比和)
- 天野皓昭 昭和三七年卒 (比和)
- 遠藤靖夫 昭和三七年卒 (比和)
- 大岩征子(花好) 昭和三七年卒 (比和)
- 寺川勝海 昭和三八年卒 (比和)
- 池田強 昭和三八年卒 (比和)
- 川野正江明石 昭和三八年卒 (比和)
- 岡崎千鶴子(伊藤) 昭和三八年卒 (比和)
- 小池正之 昭和三八年卒 (比和)
- 塚原通彦 昭和三八年卒 (比和)
- 山口進 昭和三八年卒 (比和)
- 助政千尋 昭和三八年卒 (比和)
- 田辺実 昭和三八年卒 (比和)
- 田中文男 昭和三八年卒 (比和)
- 花田和教 昭和三八年卒 (比和)
- 井上由夫(末信) 昭和三八年卒 (比和)
- 若山博文 昭和三八年卒 (比和)
- 佐々木和之 昭和三八年卒 (比和)
- 茶園美香 昭和三八年卒 (比和)
- 藤原剛 昭和三八年卒 (比和)
- 福場美知留(市岡) 昭和三八年卒 (比和)
- 奥重秀彦 昭和三八年卒 (比和)
- 武広 巖 昭和三八年卒 (比和)
- 谷本まさ子(久光) 昭和三八年卒 (比和)
- 西川進 昭和三八年卒 (比和)
- 畑原裕文 昭和三八年卒 (比和)
- 原本政至 昭和三八年卒 (比和)
- 平川公成 昭和三八年卒 (比和)
- 山名善子(松田) 昭和三八年卒 (比和)
- 坂口純子(黒田) 昭和三八年卒 (比和)

氏名の中の()は旧姓

二十八年度

総会・懇親会のご案内

十月二十三日(日)

「主婦会館プラザエフ」にて開催

今年度の総会・懇親会を例年通り、十月二十三日(日)に開催いたします。母校の校長先生並びに本部同窓会会長にも案内状を差し上げております。備後弁で楽しい会になりますよう皆様のご参加をお待ちしております。

一、日時 平成二十八年十月二十三日(日)
(受付は十一時三十分から)

総会 十二時から三十分程度

懇親会 約二時間(お開きは一五時三十分を予定しております)

二、会場 主婦会館プラザエフ
(八階 スイセンの間)

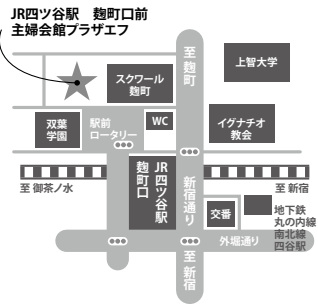
所在地 東京都千代田区六番町十五番地

電話 〇三・三二六五・八一二一

三、会費 八千円
(但し女性並びにご同伴の方は六千円)

※年会費(二千元)は、当日受付でも承ります。

総会・会場のご案内



主婦会館プラザエフ
東京都千代田区六番町十五番地
TEL. 03-3265-8111

- ・JR「四ツ谷駅」麹町口 徒歩1分
- ・東京メトロ丸ノ内線「四ツ谷駅」1番出口(徒歩3分)
- ・東京メトロ南北線「四ツ谷駅」3番出口(徒歩3分)

「」挨拶



東京庄原格致会会長
積山 弘佳
(三五年卒)

会員の皆様におかれましては、ご健勝にてお過ごしのことと拝察致します。また平素より東京庄原格致会に対し、ご支援とご協力を賜り心より厚くお礼申し上げます。

昨年10月18日(日曜日)、主婦会館「プラザエフ」に於きまして、本会の総会・懇親会を来賓5名、会員50名の出席のもと盛大に開催することができました。その模様は別掲の報告にありますので省略させていただきます。出席者の方々から年々会員数の減少・高齢化などにより会の将来的展望に危惧をされている等、貴重なご意見・ご提案を頂戴いたしました。

今後これらのご意見を踏まえ、各卒業年度別の幹事の増強を図り、女性会員の増加を図るため、皆様より広く意見を頂きたいと考えております。会の抱える諸問題に役員一同真摯に取り組み、会の発展のために全力を傾注致す所存

です。

東京庄原格致会は、関東一円に在住される母校の卒業生、在籍された方々で組織され、会員相互の親睦、母校の発展に貢献する事を主な柱として、先輩方が、伝統と歴史ある母校の同窓の会を立ち上げられました。

この創設の趣旨を受け同窓生相互の親睦をより深めるため、毎年会報を発行して皆様方に送らせて頂いております。また年2回のゴルフ懇親会、近場の旅行会、囲碁同好会(毎月)を開催し会員の皆様の懇親を図っております。

また情報交換の場としてホームページを開設しております。ぜひ開いて見て下さい。

母校も平成29年11月1日で、創立120周年を迎えます。

またひとつ輝かしい歴史を刻むこととなりました。本校は1897年(明治30年)に建学の祖である小田源吉先生によって私塾「格致学院」が創立され「質実剛健」「格物致知」を座右の銘に掲げて教育に当たられました。

激動の社会情勢の中で、幾多の変遷や、紆余曲折の歴史に辿ってきましたが、この間、私塾格致学院、広島県格致中学校、広島県立

格致中学校、広島県格致高等学校、広島県比婆西高等学校、広島県庄原高等学校、そして広島県立庄原格致高等学校へと改変が行われました。県北における学園文化の中心として芸術やスポーツ界での活躍はもとより、全国各地において、あらゆる分野で社会の発展に寄与し貢献をされております。東京庄原格致会としても引き続き支援をして行きたいと思っております。

創立120周年記念事業を行うため、学校、同窓会、PTAの三者で実行委員会を組織して検討を進めた結果、同窓生の皆様から寄付金を募って事業を行うことになりました。母校並びに同窓会のさらなる充実と飛躍を期待して行こう、記念行事の趣旨にご賛同を頂き、ご協力いただきますよう宜しくお願い申し上げます。

今年の総会・懇親会を10月23日(日曜日)に昨年と同じく四ツ谷駅に隣接する「主婦会館 プラザエフ」にて開催をいたします。関東地方に在住の同窓生の皆様、相集い故郷の懐かしいお話を致しましょう。是非お知り合いの方をお誘い合わせの上、ご参加をお待ちしております。

会員の皆さまの益々のご健勝・

ご活躍をお祈りし、併せて今後とも皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

「知性と信念、自らを高め続ける格致生」



広島県立
庄原格致高等学校校長
今岡 護

校長として3年目を迎えました。同窓会の皆様方には、日頃より本校の教育活動に對しましてご支援とご協力を頂いておりますことに心より感謝し、厚くお礼を申し上げます。また、同窓生の皆様は、全国の様々な分野で活躍されており、在校生にとりましても励みとなっております。

本校は、今年度創立百十九年を迎え、これまでの伝統と歴史にさらなる一ページを加えるべく、日々教育活動に励んでおります。また、本校のミッションである県北の人材育成校として、グローバルな視野を持ち、庄原だけでなく、広島はもとより日本国内や世界的

に活躍できる人材の育成に邁進しているところです。

本校の今年度の教育指針は「知性と信念、自らを高め続ける格致生」としています。

○「知性」とは、単なる知識の暗記に留まらず、物事を考え、理解し、判断する能力のことを言います。

○「信念」とは、自らの目標や夢を実現するための基となる、強い意志や決意のことを言います。

○「自らを高め続ける格致生」とは、自ら物事に挑戦することにより失敗や挫折を経験し、その経験を糧としてそこから立ち上がる力（レジリエンス）を身に付け、成長していく格致生のことを言います。

本校は、今年度より広島県教育委員会が主要施策として推し進める「高等学校課題発見・解決学習推進プロジェクト」の「探究コアスクール・アソシエイト」の指定校に指定されました。また、国立教育政策研究所の論理的思考力育成事業の指定校の認定も、今年度で実に3年目となります。これらの取組みを通して、知識や情報を自分の中で再構築し、自分自身の

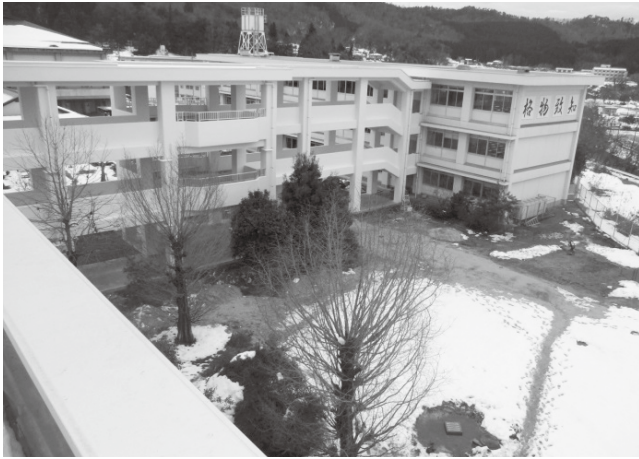
言葉で他者に発信することができ、真の学力を持った生徒の育成を行っていきます。さらに、地元にある県立広島大学と協定を締結し、庄原キャンパスへの1年生全員の体験入学を実施し、県立広島大学の大学生によるレポート作成授業等も実施しています。また、庄原赤十字病院への高度医療見学や医療系進学希望者の体験実習を行うなど、地域との連携も深めています。とりわけ昨年度は、「格致『力』検定」として、学年を越えて形成したグループで熟議を行い、格致生としての庄原市の活性化案を提言するなど、新たな教育内容の創造も行っています。

また、今年の2月15日には、格致高校の第2校舎完成以来、実に34年間切望しておりました生徒校舎の2階・3階と第2校舎とを結ぶ渡り廊下が完成し、本校生徒を含めた家族三代のご家族（生徒、父母、祖父母の方々で、いずれも格致高校卒業）において頂き、渡り初めによる落成記念を行いました（写真参照）。この間多くの方々のご尽力により、落成式を迎えることができました。渡り廊下設置に関わって頂きました皆様にご心よりお礼を申し上げます。生徒にと

りましてこの渡り廊下は、授業での教室移動はもとより、教職員との相談・連携や部活動等を含め、文字通り格致高校の「心の架け橋」となり、学校生活が更に有意義で充実したものとなることは言うまでもありません。

本校は、学力向上のみを追求するのではなく、習得した知識を知性として活用できることを目指し、豊かな心を育成することにより共感的な人間関係を育成する教育、周囲の人と協働して困難な課題を克服していく力の育成にも尽力しています。教職員一同、全力で生徒の活動を支援し指導してまいりますので、どうぞよろしくお願いたします。





「創立百二十周年の 取組みについて」



同窓会会長

片山 孝昭

(三十二年卒)

【略歴】

昭和三十三年卒。庄原中
PTA会長。六期二十三
年間庄原市議会議員。議
長、副議長、各常任委員
会委員長。
格致高校学校評議員。
格致高校学校関係評価委
員。

東京庄原格致会の皆様には、ご
健勝にてお過ごしのことと拝察い
たします。格致高校も今年で創立
百十九年目を迎えました。
庄原格致同窓会と学校、PTA

は協議の上、今年二月十日には、
記念事業の準備に向けて格致高校
創立百二十周年記念事業実行委員
会を発足致しました。そして学校
側から提出された記念事業の内容
について検討してまいりました。
内容につきましては、校舎と校舎
の間の整備の要望が主体であり
千七百万円の工事費が必要との説
明がありました。

実行委員会でも再三再四検討致し
ましたが、少子化が一段と進む中、
環境整備よりも、学力向上、文化
教養等に重点を置くべきではない
かとの強い意見が多く出されまし
た。

次に百二十周年の意義について
の学校側の説明では、還暦の二回
り目にあたるので重要な節目の年
とのことで、最近では、日彰館高
校（三次市吉舎町）の百二十周年
記念事業があり、極めて盛大に開
催されたとお話があり、その
内容についても説明がありました
。現在までの卒業生は二万一千
人で、格致高校より約五千人多
く、同窓会の規模も大きいと思
います。平成二十六年四月に実施さ
れ、意義のある節目の年というこ
とで総額千六百万円の募金を集め
ておられます。

記念事業の主たるものは、同窓
会記念館整備、教育振興基金、同
窓会運営基金等であります。私の
友人に日彰館高校の同窓生で副会
長の重責を担った人から当時の苦
労話を聞き、特に募金活動では
大変な苦勞をしたとお話であり
ました。

それから今年度は世羅高校も
百二十周年記念事業の年にあた
り、日彰館高校とほぼ同規模の事
業を実施されるとのことでありま
す。

格致高校百二十周年実行委員会
もこれらを参考にしながら六月
中に記念事業の最終案を決定する予
定であります。内容につきましては
は、今回の会報、趣意書等で詳細
に説明しご協力をお願いすること
になります。よろしく願ひし
ます。

当初、中庭の整備につきまして
は、平成二十七年で校舎間の渡
り廊下が県教委の予算で完成して
おり、その東側の整備が学校側の
要望でありましたので、実行委員
会で検討の結果、一部の整備に留
め、残りについては県教委に要望
していくことに致しました。

このことを学校側に説明し、整
備については五百万円程度に縮小

し、教育振興基金等に充当していただくことに決定したいと思っております。

募金につきましては、趣意書を作成の上会員に配布してお願いすることになります。

予算総額は千六百万円として、その内会員の募金は千三百万円として、一口五千元、できれば二口以上でお願いし二千六百万円を予定しております。庄原市在住の方につきましては、チームを組み各戸訪問の上お願いすることにしております。

市外の方につきましては、大変失礼ですが会報、趣意書、振替用紙を郵送しお願いすることになります。

従って、東京、近畿、広島の格致会には、会としての募金額につきましても提示をしませんので個々で対応していただきますようお願いいたします。

実行委員会も来年六月末日までには、すべての準備を完了すべく全力で取組んでまいります。

ここに東京庄原格致会の皆様のご健勝を祈念申し上げます、百二十周年記念事業にご支援ご協力賜りますようお願い申し上げます。

会員だより

至福の時



田 渕 統 洋
(三五年卒)

私の趣味の一つはオーケストラを聴きに行くことである。初めて生のオケを聴いたのは大学一年の時、巨匠シャルル・ミュンシュ指揮のボストン交響楽団であった。この時の煌びやかで重厚な音色への感動が生涯の趣味となり、現在も平均して少なくとも月に一回はオケのコンサートへ出かけている。中学、高校と吹奏楽団のメンバーとして身を置いてきたが、全く異なる世界があることを知ったのである。格致の先輩や後輩の音大を卒業後、プロのオケでの素晴らしい活躍を承知しているが、演奏会場で聴く立場から少し私見を述べてみたいと思う。

十年も前のことであるが、ドイツを訪問中にベルリンでベルリン

フィルの定期演奏会を聴く機会を得た。その鳴り響く音には圧倒された。圧倒というのは音が大きいという意味ではない。楽団員全員が一流奏者であるだけに、音が神々しいのである。間違いなく世界最高レベルのオケであることを確信した次第である。それにこのオケは専用の立派なコンサートホールを所有しているのだからいたしたものだ。

近頃は日本でも無料又は低料金で聴けるアマチュアのオケが全国的に増えてきて、東京には相当レベルの高いものもある。しかし調律が完璧で、演奏にミスが起らないプロのオケは聴く立場から緊張を要せず安心して聴くことができる。また同じプロでも有名なオケと一流の指揮者による演奏は格段にレベルの高いものになり得るのである。

楽団員も音大を卒業して欧米へ数年間留学の上、国際コンクールで入賞した人が増えてきた。指揮者に至っては海外留学は当り前のことで、著名なコンクールで入賞し、世界各地のオケから招聘を受け、研鑽と経験を積むことになる。徐々に円熟味を増して遂にはマエストロと呼ばれるようになる人も

ある。

マエストロかどうかは最初の振りで判るものである。出てくる音の質感と音の締め具合で明らかになる。腕の動きや身振りが美しく、左右の腕がほとんど別々の動きをする。それに曲のフレーズや大きな流れに従って柔軟に腕や身体が動くとともに顔の表情が様々に変化するので、曲のストーリーや情景に対する指揮者の思いが的確に表現され、次第に指揮者と演奏者の呼吸がぴったり合い、曲調が乗ってきて、素晴らしい音色と至高の響きが出ることもある。こうなると何とも言えない陶酔感が会場を包み、その感激で演奏者、聴衆ともに涙が滲み、身体が震えることさえある。この至福の時こそ、「ああ、生きていて良かった！」と思う瞬間である。

「格物致知を 人生に実践する」

坂口直樹
(平成八年卒)

【略歴】
料理アドバイザー、作詞作曲歌手、剣道二刀流書道家として世界遺産宮島観光大使に任命される



皆様はじめまして。昭和52年生まれ、坂口直樹と申します。書道家名(雅号)は坂口赤道と申します。この場をお借りしまして皆様と御縁を頂き、ご指導を願えることを楽しみに思い、僭越とは知りながら筆を執らせていただきました。【略歴】をご覧になって、おそらく「こいつは何者だ」と思われた方も多いいと思います。料理アドバイザー、ミュージシャン、それぞれも現役ではありますが、本日は現在本業の書道家としてのお話とさせていただきます。私は書

家詩人として日々の多くを書と共に過ごし、政府機関や企業のご依頼を受け、海外国際見本市などで、書道パフォーマンスなどをご披露させていただいております。もちろん国内でも、文化財での個展や百貨店などでの詩の書下ろしイベント、書道教室の開催など、書家活動をさせていただいております。昨年は故郷の備北丘陵公園創立20周年記念事業の一環としまして、庄原花会議の皆様のお力添えもいただきながら「坂口赤道 書画と花装飾展」の開催と市内の10余の保育園にて、書の特別授業を開催してまいりました。故郷でこういった活動をさせていただけましたこと、本当に光栄に思っております。この展のためにすべて新作で70点余を書き下ろした作品のなか、思い出深い作品は「大地」です。この作品には筆も墨も使いませんでした。形だけ美しい文字では、私のふるさと【庄原】を表現できないかと思ったからです。田んぼの土を漉して、野焼きの煤や炭焼き小屋の庄原木炭を乳鉢で砕き膠と合わせて墨の代用を創り、庄原の田んぼの稲わらを束ねて大筆の代用として、一気に書き上げた作品です。技術だけでは到底届

くことのできない「本物の本質」を表現しました。まだまだ見たことのない自分を探求、表現し続けてまいります。そして個性追求の指導。例えば筆の持ち方。基本と違っても、筆と向き合って1千通りの持ち方を試し、1万枚の試し書きを試みた上での、自分なりの最高の方法が、口で字を書くことならばそれはもう、間違いではなく正しいことです。

大人に筆はこう持つのが正しいのだと、わずか1回2回聞かされただけで、子供たちは、それを「正しい」としてそれ以外の個性や才能を「間違い」として排除しようとしています。なんと恐ろしいことでしょうか。書に限らず、全において、個性を尊重していきたいものです。私の信念「邪道も貫き極めればパイオニア、途中で諦めたら邪道以下」私なりの、格物致知の探求です。これからも、これからも、これからの



頑張っています

落語家林家ひろ木さんの感謝祭に参加

平成十年卒の林家ひろ木さん(本名沖上比呂志)の感謝祭が四月三十日(土)午後二時から横浜市中区野毛町の横浜にぎわい座のげシャールにて行われ、有志七名で参加しました。落語二席と津軽三味線で楽しませてもらいました。

ゲストに太神楽曲芸の柳貴家雪之介さんも参加され凄腕を披露されました。林家ひろ木さんは林家木久扇師匠のお弟子さんで来年は真打に昇進の予定です。

みんなで応援をしましょう!!
(事務局)



母校だより



平成27年度 報告

庄原格致高校 教頭

杉野 誠

今、広島県の教育は、全国から注目を浴びています。これは、広島県が平成二十六年年十二月に、全国に先駆けて発表した「広島版『学びの変革』アクションプラン」により、近い将来発表される指導要領を先取りした「コンピテンシーベースの主体的な学び」に取り組んでいるからです。

本校も発表当初から積極的に取り組んでいます。平成二十七年度は、学習活動だけでなく、生徒会活動はもちろん各種行事においても、『学びの変革』を意識した実践に挑戦した印象的な年となりました。

もともと本校では、平成二十六年度から二年間、国研の指定を受けて、論理的思考力の育成を課題とした「パフォーミングス課題とルーブリックの作成」に取り組みでございましたので、学校は授業改善の意気に満ちていました。また、

率直に意見交換できる教職員と何事にも積極的に取り組む生徒の雰囲気が進力となりました。

たとえば昨年、「高校生による中山間地域わくわく事業」がスタートしました。これは、中山間地域の次代を担う高校生に地域活性化に取り組むことを通して地域愛を育て、次世代のリーダーとして育成しようとする県教育委員会の事業で、県北の全高校を含む県下二十数校が指定を受け、まずは計画づくりの一年ということでは、指導担当の生徒指導部と実施を担う生徒四名とそれを支える生徒会執行部が「ちりとスクラムを組む」と、単なる計画づくりにととまらず、「庄原よいとこ祭」の実行委員会に参加。郷土の夏の代表的な行事である同祭を大いに盛り上げる原動力となりました。

さらに十一月中旬には、一・二



庄原よいとこ祭での格致生発案企画「庄原よいとこの輪」

年生全員が郷土の課題を学習したうえで六人ずつのグループを作り、「安全な暮らしづくり」「豊かな地域づくり」「人づくり」のいずれかのテーマに、現状分析を踏まえた改善策を作成、ポスターセッション方式でプレゼンを行いました。「格致『力』検定」と名付けられたこの取組は、丸二日かけて熱心な論議を行い、発表まで漕ぎ着けました。まさに課題把握、集団論議、理論構築、発表等々、無から有を生じる「コンピテンシーベースの主体的な学び」そのものの取組となりました。

この二日間を運営した生徒会執行部員はさらに論議を深め、生徒会執行部自身が地域活性化策を提示しました。この発表が素晴らしいであったため、下崎県教育長に発表を見ていただくことを企画。年度も終わりに近づいた三月十一日、執行部員二十四名が県庁に県教育長を訪ね、ついに直接プレゼンを行うことができました。教育長は一つ一つ頷きながら生徒の説明を聞いてくださり、今後の活躍に期待を寄せてくださいました。

生徒たちはさらに独自のアンケートを作成し、回収可能な旧地域の意見集約を行い、本年度の取

株式会社 龍 寿司

取締役会長 椎名 喜多子
(旧姓 室伏)

2016年11月7日(月)、築地から豊洲新市場に移転し、管理棟3階で「龍 寿司」として開店いたします。皆様のご来店をお待ちしております。

体がよろこぶ!

「効く」漢方の正体

東京庄原格致会会員が上梓しました

薬剤師 恵木 弘著 (株)東洋薬行社長 定価 1050円(税込)

例えばカゼに効く葛根湯、10社以上から同名の商品が出ているが、品質は千差万別。当然、効果もまちまち。漢方生薬の品質を40年以上研究してきた筆者が、今まで誰も語らなかった、知らないと損をする「効く」薬の選び方を指南する。

お求めはアマゾン(www.amazon.co.jp)かお近くの書店まで

組に繋げる予定でおります。今後の実践にご期待ください。また、本年も庄原よいとこ祭に実行委員として参加します。祭りの日に御帰省の際は、ぜひ声をかけてやってください。

なお、3年生は進路実現に努力し、前年を上回る延べ二十八名が国立大学合格を果たしました。関東方面への進学が例年より多かったのも一つの特徴です。

今後とも後輩の活躍にご期待ください。



教育長訪問 (左端が下崎県教育長)



格致『力』検定プレゼン風景

郷土だより

藤原剛

(四三年卒)

昨年の株主総会を最後に会社人としての役割を終え、終の棲家と決めた庄原の田舎にUターン帰省して早くも半年が経ちました。

これまでお盆や正月には度々帰省していましたが、庄原市民として生活をする48年振りの田舎暮らしは益々過疎化が進み、通っていた中学も統合され廃校になっていました。

川北小学校も全校生徒で21人と私達がいた頃の一学年100名近い生徒数と比べると寂しい限りです。私は生まれ育った田舎の活性化に少しでもお役に立てないかと、市や友達に声を掛けて色々なボランティアやお手伝いを始めました。社会福祉協議会へ登録し養老施設でのテント張り(齢のせいでの力仕事は無理だと判りましたが)や自治振興区での放課後教室支援、小学校の通学時の声掛け運動、グラウンドの草刈り、カープ応援隊とし

てスタジオム観戦等々少し地元の人たちとの交流も深まってきました。さらに庄原民謡「敦盛さん」保存会の事務局(三味線担当兼)となり、8月末のよさこい祭り出演のための練習や段取り、またこどもミュージカルの実行委員としてこの夏カープのマツダスタジアムでの始球式やダンス披露の様子の写真撮影を予定しています。

今年のミュージカル演目は「ピーターパン」で10月に市民会館で開催予定。そろいのTシャツで頑張っています。余暇としては新しくなった市役所のロビーで月一回昼にコンサートが開かれるのでジャズ、ミニオーケストラ、二胡演奏、コーラス、フラダンス等々毎回楽しみに通っています。また本町のお酒の蔵元を譲り受けて市が管理している楽笑座での九日市のまかない提供のウェイターもやっていて馴染みのお客さまとの触れ合いも楽しみの一つです。

都会の友達から、庄原って何が有名なの?どんな名所があるの?とよく聞かれます。こんなに良いところがあるよと、自慢できるよ。うまた探索していきますので次回を楽しみにしてください。

(東京格致会庄原支部駐在記者)

どんな小さな工事・修理でも、お気軽にご相談ください

ガーデン&エクステリア

0120-454295 お気軽にどうぞ



株式会社 八王子装建

代表取締役 西谷光徳 (昭和46年卒)

諸官庁工事指定店 10年保証 お見積り無料 迅速対応
八王子市子安町1-32-19

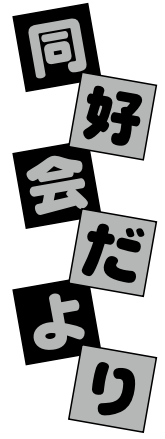
TEL: 0426 (45) 4295 FAX: 0426 (44) 8549

URL: <http://www.h-soken.com/> E-mail: nisitani@h-soken.com

J E W E L E R

miwa

東京都中央区銀座6-7-2
TEL. 03-3572-5011
<http://www.miwap.com>



【囲碁同好会】

会長交代 藤高さんから近藤さんへバトンタツチ

(附) 日本語にみる囲碁の常用語



二十八年上期の格致カップ争奪戦は六月の第178回の月例会で上期の成績上位の八名による決勝トーナメント戦で争われました。結果は予選第八位で決勝戦に進出した合田良三さんが敗者復活戦から勝ち上がる粘りで、予選第二位で決勝に進んだ近藤正昭さんを破り、見事に優勝し賞金を獲得しました。第三位には坂部賢治さんが入賞しました。

今期を終了するにあたって、囲

碁同好会にとっては大変大きな衝撃がありました。平成一二年の同好会発足メンバーの一人で、会の中心として指導的役割を果たしてこられた藤高明会長が、体調不良もあり、今期で会を脱会されることになり六月例会にお別れの挨拶に見えました。一日も早い快復を願いながら感謝の気持ちをもつて、会員一同お別れしました。後任の会長には近藤正昭さんが就任、リーダーシップに期待大です。今期は病気の人が、怪我の人が多く少し寂しい半期になりました。新人の参加者を募集しています。経験の有無を問わず一度、新宿で開いている月例会(毎月第二日曜日)に顔を出していただき雰囲気を見てください。お友達同伴の参加も大歓迎です。

さて、囲碁と日本語のかかわりを皆さんほどの程度ご存知でしょうか・・・? その一端を知るとそのかわりの深さに気付かされます。

① 囲碁の対局で「一目置く」とよく言いますが、これは棋力に明らかに差のある者同士が対局する場合に、弱い方が先

に石を置いてから始めることから、一般にも相手を自分より優れているとみなして敬意を表す場合に使われています。その強調形として「一目も二目も置く」が使われることもあります。

② 「駄目」という言葉もよく使いますが、自分の地にも相手の地にもならない目のことを言います。転じて「役に立たないこと」として使われています。

③ 序盤、戦いが始まるまでの石の配置を「布石」と言います。転じて「将来のためにあらかじめ用意しておくこと、またその用意」として使われています。

④ 「捨て石」という言葉もあります。対局の中で不要になった石や助けることが難しい石をあえて相手に取らせることで、すが、一般には「あえて一部分を犠牲にすることで全体としての利益を得ること」として用いられています。この他にも「八百長」、「死活」、

創業37年



二階堂調剤薬局
グループ

まへの薬局本店 二階堂調剤薬局
まへの薬局北口店 大山調剤薬局
まへの薬局南口店

代表取締役 薬剤師

石井美佐子

(旧姓 瀧口) (昭和48年卒)

東京都板橋区南常盤台 1-30-21

TEL 03-3958-9955

「目算」など沢山の囲碁用語があります。皆さんも一度、囲碁の世界に足を踏みいれて実感してみてください。

(囲碁同好会事務局 八谷英樹)

【ゴルフ同好会】

日彰館卒業生が 優勝・準優勝に!! ベストグロは横山隆視さん

東京庄原格致会第52回ゴルフコンペが好天に恵まれた4月8日、千葉県紫カントリーあやめコースで開催され、11人の参加者が熱戦を繰り広げました。

競技は新ペリア方式で行われ、優勝・準優勝は日彰館高校卒でゲスト参加の杭迫重臣さん、岩竹康良さんが獲得されました。(次回、格致高校の奮起が期待されると思います。)

ベストグロはOUT 42、IN 39 合計81でまわった横山隆視さんが、ゲスト参加の岩竹康良(日彰館卒)さんに3打差を付けて獲得しました。
ニアピン、ドラコン以外にも、



ワンオンした人でピンから一番遠い人(ロングピン)やドライバーを使用しフェアウエーキープで一番飛んでいない人(ドラ短)といったユニークな賞も用意されており、体力・技術に応じて楽しめるコンペでした。

		OUT	IN	GROSE	HDCP	NET
優勝	杭迫重臣 (日彰館卒)	46	47	93	21.6	71.4
準優勝	岩竹康良 (日彰館卒)	43	41	84	12.0	72.0
三位	亀井勲三 (35年卒)	44	43	87	13.2	73.8
ベストグロ	横山隆視 (52年卒)	42	39	81	7.2	73.8

(参加者全員のグロス平均スコアは99.7でした。)

次回53回コンペは、東京西城会、東京馬洗会と合同で10月28日(金)に予定されております。
参加希望の方は事務局までご連絡ください。老若男女、腕前は問いません。楽しくゴルフをされたい方の参加をお待ちしています。



食彩館しょうばら ゆめさくら



庄原のお土産は、
「庄原の食」を一堂に集めた特産店で!
お食事・仕出しは、お食事処 花ほぼろで!!

〒727-0004 広島県庄原市新庄町 291 - 1
TEL 0824-75-4411 FAX 0824-75-4422
〈指定管理者〉株式会社 グリーンウインズさとやま
代表取締役 藤光 有 (昭和40年卒)



庄原さくら温泉

かんぽの郷 庄原

〒727-0004 広島県庄原市新庄町281-1
TEL.0824-73-1800 FAX.0824-73-0100

<委託運営会社> 株式会社サンヒルズ庄原
社長 長谷部 泰士 (昭和48年卒)

平成27年度東京庄原格致会会計報告

(自平成27年7月1日～至平成28年6月30日)

(単位：円)

一般会計収支報告書

収入の部		支出の部	
前年度からの繰越金	98,681	総会経費	426,543
年会費	295,000	会報作成費・発送費(一般)	269,906
広告収入	70,000	母校・他校同窓会参加費等	100,000
総会会費	382,000	同好会助成費	20,000
お祝い・寄付	84,000	会議諸経費・消耗品	3,549
受取利息(一般)	13	HP更新料	34,684
		通信費	13,184
		振込手数料	12,682
		雑費	3,974
		次期繰越金	45,172
合計	929,694	合計	929,694

特別会計(基金)収支報告書

(単位：円)

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	76,097	次期繰越金	84,115
基金	8,000		
受取利息	18		
合計	84,115	合計	84,115

財産目録(平成28年6月30日現在)

(一般勘定)

郵便局 振込口座	23,656円
〃 一般口座	21,516円
現金	0円
合計	45,172円

左記のとおり報告致します。
平成28年7月23日

東京庄原格致会

(基金勘定)

郵便局 基金口座	84,115円
合計	84,115円
総合計	129,287円

会長 積山弘佳
 監事 遠藤靖夫
 監事 塚原通彦
 事務局長(会計) 武広 巖

東京庄原格致会役員名簿(二十七年十月十八日)

顧問	平田 耕司(昭和二〇年卒)	合田 良三(昭和三十三年卒)	幹事	山城 建治(昭和三十九年卒)
金森 裕雄(昭和二五年卒)	生田八洲菘(昭和三十三年卒)	助政 千尋(昭和四〇年卒)	若山 博文(昭和四一年卒)	新宅一二三(昭和四二年卒)
酒井 久幸(昭和二五年卒)	積山 弘佳(昭和三五年卒)	藤原 剛(昭和四三年卒)	奥重 秀彦(昭和四七年卒)	吉田 玲児(昭和四七年卒)
室伏 孝一(昭和二五年卒)	追田 芳徳(昭和三四年卒)	遠藤 靖夫(昭和三七年卒)	田原 英樹(昭和四八年卒)	矢吹 文伸(昭和四八年卒)
保田 治義(昭和二六年卒)	八谷 英樹(昭和三五年卒)	塚原 通彦(昭和三八年卒)	近藤 正昭(昭和二八年卒)	明賀 馨(昭和三〇年卒)
兼利 卓蔵(昭和二八年卒)	福場美知留(昭和四五年卒)	渡辺千草様(二〇年卒)	西村 充様(二六年卒)	渡辺千草様(三八年卒)
近藤 正昭(昭和二八年卒)	寺川 勝海(昭和三七年卒)	守長和子様(四一年卒)	茶園美香様(四三年卒)	坂部賢治様(五三年卒)
明賀 馨(昭和三〇年卒)	花田 和教(昭和四〇年卒)			
渡利 治博(昭和三二年卒)	石井美佐子(昭和四八年卒)			
飛谷 安宣(昭和三二年卒)	巖(昭和四八年卒)			
森沢 進(昭和三三年卒)	西川 進(昭和四八年卒)			

編集後記

☆校長先生、教頭先生、本校同窓会会長には、ご多用のところ早くご寄稿いただきありがとうございます。学力向上のみならず、豊かな心を育成する教育を実践され、後輩の地域の祭りでの活躍など頼もしく思います。設備面でも、渡り廊下の完成で教育環境は随分改善されたものと思います。

☆本校同窓会会長からは、創立120周年記念事業への寄付依頼がありました。母校でお世話になったことを思い出します。できる限りの協力をしたいものです。

☆平成の卒業生、書道家 坂口直樹さんと、落語家 林家ひろきさんの活躍ぶりには勇気づけられます。これからも若い同窓生を応援しましょう。

☆会報が発行されるころには、カープの優勝が決まっているでしょうか。カープ一色の中国新聞を取り寄せてみたいものです。昨年はサンフレッチェ、今年はカープと故郷のチームが活躍すると身体は関東にあっても心は広島にあるのでしょうか、自然と喜びが湧き上がってきます。

☆今回、少しでも読みやすくしたいと思い、文字を少し大きくしましたが、気付かれましたか。

☆会報の発行に際し、広告を頂いた広告主の方、ご寄付を頂いた会員の方々に御礼を申し上げます。

☆執筆依頼・校正等でご協力頂いた編集委員の方々にお礼を申し上げます。(事務局)

ホームページ活用のお願

http://www.t-shobarakakuchi.com
 ホームページをより充実したものにするため、皆様からの沢山の情報・投稿をお待ちしています。

デザイン・印刷・ノベルティで企業イメージをUPさせる販促品をご提案いたします。



株式会社
 クレスコアースコミュニケーションズ
 〒101-0041
 東京都千代田区神田須田町 2-2-5 CTNビル 7F
 TEL.03-5207-5189
 www.cresco-ars.co.jp

 年会費の納入のお願い！
 「年会費」は、東京庄原格致会の会報発行等の運営費を賄うための最も重要な財源です。御一人 2千円をお願いしております。お送りいたします振替用紙で入金いただきますよう、よろしくお願いたします。

「ご寄付をありがとうございます。」
 この一年間に次の方々からご寄付などをいただきました。心よりお礼を申し上げます。
 八谷義登様 (二〇年卒)
 西村 充様 (二六年卒)
 渡辺千草様 (三八年卒)
 守長和子様 (四一年卒)
 茶園美香様 (四三年卒)
 坂部賢治様 (五三年卒)